

1. 略歴

- 1987 年 3 月 京都大学文学部卒業（文学士）
- 1989 年 3 月 京都大学大学院文学研究科修士課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）修了（文学修士）
- 1990 年 3 月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）退学
- 1990 年 4 月 神戸大学教養部助手
- 1991 年 10 月 神戸大学教養部講師
- 1992 年 10 月 神戸大学文学部講師
- 2000 年 10 月 神戸大学文学部助教授
- 2000 年 4 月 文部省在外研究員としてドイツベルリン自由大学に留学（2001 年 2 月まで）
- 2007 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2018 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現職）

2. 主な研究活動

a 専門分野

近代ドイツ語圏文学

b 研究課題

18 世紀の文学と思想が研究の中心にある。もともと初期ロマン主義研究から出発し、ノヴァーリスを中心に仕事を進めてきた。とくに超越論哲学および自然科学との関係において初期ロマン主義が展開した独自の表現技法と、その背景にある言語観と芸術観が興味の中心にあった。また、その問題意識を継承する 20 世紀の文学者や思想家の系譜も研究の対象となった。現在は、啓蒙期の文学と思想を、ロマン主義の前史という観点に限定されることなく研究している。また、18 世紀以後、ドイツ語圏にあって、自然科学者であり、あるいは自然科学研究から出発しつつ、文学者であった人々（ハーラー、リヒテンベルク、ノヴァーリス、アルニム）から現代にいたるまでの営みを『実験者の文学』という観点から跡付ける作業を進めている。同時に 18 世紀から 19 世紀初頭における古典古代の受容にも関心があり、現在はヴィーラントを中心に検討している。

c 概要と自己評価

『リヒテンベルクの雑記帳』刊行後も継続中の G.Ch. リヒテンベルク（1742-1799）研究の成果の一端として、独文学会主催の文化ゼミナールで「リヒテンベルクにおける〈幻想的なもの〉」についての発表を行った。

ドイツロマン主義・啓蒙主義をさまざまなコンテクストにおいて検討するという年来の研究方針は継続中であり、今期は、ノヴァーリスの最初期の哲学ノートの抜粋を翻訳・解説し、Ch. M. ヴィーラント（1733-1813）についての研究発表を行った。また、このプロジェクトから派生した〈18 世紀のドイツとイギリスの知的・文化的交流〉に関する研究プロジェクトは、ひとまずシェリング協会におけるシンポジウムの企画・司会・発表という形をとった。このプロジェクトは今後も継続していく予定である。また、新たなプロジェクトとして、18 世紀ドイツにおける Antike 受容の再検討を進めているが、ヴィーラントについての発表はその成果でもある。

『文藝年鑑』においてドイツ語圏の現代文学概観を 2 年間担当したが、これはこれまでになかったタイプの仕事であった。

2019 年 6 月より勤めていた日本独文学会の会長職は 2021 年 6 月で任期を終えた。コロナと重なり学会運営にも多くの困難があったが、理事の皆さんのご尽力によって何とか職務を全うすることができた。

d 主要業績

(1) 翻訳

個人訳『フィヒテ研究』抜粋（翻訳・注釈・解説）、『多様体』第 3 号、月曜社、2020 年 11 月、338-366 頁

(2) 学会発表

国内、ゲストスピーカーとしての講演：

Shinji Miyata : „Durch das Planlose Umherstreifen durch die planlosen Streifzüge der Phantasie wird nicht selten das Wild aufgejagt, ...“ Einige Bemerkungen zum Phantastischen bei Lichtenberg

2021 年 3 月 15 日（日曜）ドイツ文化ゼミナール・オンライン代替企画

Die Online-Alternative zum Tateshina-Seminar 2020: Die Phantastische Literatur

日本独文学会（主催）ドイツ学術交流会（DAAD）共催

国内、シンポジウム「シェリングの時代におけるイギリスとドイツ ―その知的交流と交響の諸相―」企画・司会
および発表：

「宇宙・相貌・人間―18世紀ドイツ文藝・思想とイギリス―」

日本シェリング協会、2021年7月4日、東京大学/オンライン開催

科研費研究会での発表：

研究課題「ファウスト文学に見る「神の死」の系譜」（研究課題/領域番号 20K00511 研究代表者：高橋義人 平安女
学院大学, 国際観光学部, 教授）

「進歩・知識欲・人間 について―リヒテンベルクの考えていたこと―」、2021年4月25日

「Wieland ともうひとつの Antike (1)」、2022年1月8日

「Wieland ともうひとつの Antike (2)」、2022年3月28日

(3) その他

「海外文学 2019 年・ドイツ文学」、日本文藝家協会編『文藝年鑑 2020』、2020 年 7 月、74-76 頁

「海外文学 2020 年・ドイツ文学」、日本文藝家協会編『文藝年鑑 2021』、2021 年 6 月、74-76 頁

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本独文学会、会長、～2021.6、監事、2021.6～

国内、日本シェリング協会、理事、2008～